



曲亭馬琴著
 傾城水滸
 傳第三編
 歌川國安画
 上帙卷之上

特
 へ遠 13
 1964
 9





壹

近洲伊香郡一座の山あり俗小玉を志津嶽と吸傲しこの山琵琶湖と面あり余吾湖と背小し只此の山ありと云余吾飯浦の二大河の山前山後と相遠くその末越前なる板倉の方小玉と云この山嶋峰なるたその景観又唐山なる梁山泊似ては致るる今この冊子に作談之彼如く擬しり近世寒葉齋綾足が本朝水滸傳を著しと近江の某の山とて梁山泊に比せしハ塩焼王の故事小玉と梁山泊生嶋長命寺の嶋と云とせしるハ皆神仏の天地の事多も梁山泊百里ののと廣くは似たりと云ままかたのれ予も亦此意あり且貞の強を總て烈女と綴り易く亦勸懲の一端也那時鎌倉小政子の京師必重菊の女主と内奏より支起す終る美久の乱に至ると此の時小玉て義婦烈女の薄命なるを水滸の二書小模擬するのり婦人小玉恰好多死如くのヨウなるを云うかうわを附くと又續出第三編の自注と自叙と代ると如此也

文政十丁亥年春正月吉日新版曲直亭馬琴識馬

水滸傳



三才の粉蝶

天地と
海と
智恵の
ちり紙
のちり紙

智計海の
呉竹



のをのど
青山風の青柳

石取川舟と
際もあるも
かぐらうら
このちりきん

向不
城の



直蜚の指妻

赤頭の味鬼

いぢ川
澄む毛燭
落てあふは
後夜
ぬきそい
後

鶴
尾

賽博士巨綸

天津雁真弓



健婦
占一寨
梁山泊
苟且
あふ路
囃
六

女仁王
松木



何^なと^とい^いま^まの^の 千^ち代^ぢ乃^の 糸^{いと}の^の 浦^{うら}の^の 日^ひの^の 子^こね
 氣^き違^{ちが}水^{みづ}の
 井^い五^ご

鬼^{おに}子^こ母^{はは}神^{かみ}の^の 七^{なな}曲^{まが}

大^{おほ}歳^{とし}麻^{あし}
 二^{ふた}綱^{つな}



乘^{のり}れ^ば 虚^こ空^{くう}の^の 雲^{くも}助^{すけ}
 山^{やま}駕^が 籠^{かご}

指^{さし}神^{かみ}子^こ簪^{かんざし}

暴^{あらし}磯^{いそ}神^{かみ}の^の 朱^{あか}西^{にし}





Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script, surrounding the illustration on the left page.



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script, surrounding the illustration on the right page.









春の巻
 十代目
 春の巻
 十代目

春の巻
 十代目
 春の巻
 十代目

春の巻
 十代目
 春の巻
 十代目



春の巻
 十代目
 春の巻
 十代目

春の巻
 十代目
 春の巻
 十代目

春の巻
 十代目
 春の巻
 十代目



この書は、... (Vertical text columns surrounding the illustration, likely commentary or related text.)

瀧澤篁民著

迎福南鍼録

一名相宅手引草
全部五冊 近刻

右同著

雅俗百傳一奇

大本全五冊 繪入
平假名附 近刻

右重具遠く板板住の音通町書林

仙鶴堂小林喜右衛門印行

近來選擇相宅の書... (Vertical text columns below the main title, providing details or commentary.)

この書は雅と俗と... (Vertical text columns below the title, likely a preface or introduction.)

